

---

# すぷりんぐプティング

弾楽一奏

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

すぷりんぐブティング

### 【Zコード】

Z0218K

### 【作者名】

弾楽一奏

### 【あらすじ】

如月春霞は対人恐怖症の疑いがかけられるほどの内気な女の子。

桜の町にやってきたひとりの転校生。

落ちるべくして恋に落ちる春霞は友情と愛情の天秤に心を悩まされる。

超変則的王道ラヴストーリー。つて王道じゃないだろ！？

## ？桜吹雪と始まりの鐘

恋の中に沈むもの。

私はそれを拾つてみようと思いました。

彼はそんな私を笑つたけどそれでも私は一生懸命に探し続けます。切ないラヴストーリーなんて言つちやうと陳腐かもしけないけど他に例えようが無いのが私の恋のお話。

凍てつく海に飛び込んで宝物を探すような痛みを伴つた恋の話。百聞は一見にしかず。少しばかり覗いていつてください。

私は如月春霞（みづづか）です。今年高校一年生になりました。桜並木から舞い落ちる花弁のカーテンが私は大好き。そんなメルヘンな女の子。本当にならぬつくり眺めながら登校したいところなんだけれど、今日はそうも行きませーん。

寝坊しちゃつたのです！

亀の如き驚異的な足の速さの私でも歩くよりは走つたほうが速いです。体力だけは自信があるので学校に着くまでは走つていけます。このまま全力疾走していけばぎりぎりで遅刻は回避できるはずです。でも本当に瀬戸際なのでこの桜吹雪を身体で弾きながら走ります！

「ふわ。それにしても…すごい桜吹雪」

今日は風が強いみたいでいつもより桜の花が舞っています。  
だからその時私は気付きました。

彼が桜の木陰に佇んでいることに。

彼と出会うのはもうしばらく後です。ここでは出番は『えられません。申し訳ありません。

学校に着くころには身体中汗びっしょりです。いくら四月の初めでまだ冷えるといつても30分も走り通しでは新陳代謝の悪い私も汗が流れ落ちます。

「ありやーハルつてば汗でベットベトじゃない！？」

ハル。私のあだ名です。

でもそう呼んでくれるのは小学校からの友達の咲島花恋ちゃんだけ。私にとても真似できないアクティブさで男子に大人気らしいです。ただ本人は鬱陶しがっています。男なんてろくなモンじゃねー、と吐き捨てて。

「うん。遅刻しそうだつたから走つてきたんですよー」

「へー。家からずつと?」

「うん。ずつと」

「ありや。相変わらずハルつてば体力だけはあるんだねー」

教室に着いてしばらくすると汗が冷えて気持ちが悪くなつてきました。いつ。

「ハルー。どうしたん? そんなもぞもぞしてさ」

「ちょっと汗が冷えてきたかも。そわそわします」

「やり、と擬音が聞こえそなぐらいに花恋ちゃんが笑つたのを私は見ました。私は知つてます。この笑い。花恋ちゃんが何か悪いことを考え付いたときにする」の笑いを!

花恋ちゃんが私のほうにすーっと手を伸ばしてきて背中をつこうと指でなぞります。

「ひやうんつ……？」

あつ……。汗で冷えた服が花恋ちゃんの指の動きで私の背中に押し付けられます。

「の筆舌しがたい強烈な刺激! 恥ずかしながら思わず声が漏れてしまいます。

「ありやありや。どうしたのかなハルちゃん?」

「つこつこ、つこつこーっ。

「ひやあつ……」

「そんないい声で鳴いちゃつてえ。……ワタクシ咲島花恋ちゃん、正直興奮してまいりましたあつ……」

「くくくく、なんて変態さんチックな笑みを浮かべながら迫つて

くる花恋ちゃんに私は正直戦慄しました。何ですかっ！？そのアヤシイ手の動きというか指の動きは！？

「ううう。私、お嫁にいけない身体になっちゃうんでしょうか？乙女の貞操が！まさか友達によつて！しかも同性！そんなのダメですっ！！

「にやはーー！イッタダキまーす！..」

「貴様一何やつとむかー—————ツ—————！」

「ずつぱーん！」

目の前をカーリングのストーンの如く滑つていく花恋ちゃん。教室のドアに頭をがつづりぶつけたまま止まりました。心なしか頭から煙がふすふすと……。

「なんじゃコノ色ボケ娘は。朝っぱらから何をトチ狂つてある」片手に巨大ハリセンを持つ女の子。艶のある黒髪をツインテールにした低身長のこの娘。

私の数少ない友達の一人。上新理桜子ちゃん。田頃から自分の名前が言いにくいくらいと嘆いている真っ直ぐな剣道少女。いつもこんな感じで花恋ちゃんをハリセンでシバいています。

「た、助かりましたあ……」

ほつと胸を撫で下ろします。文字通り私の胸は撫でてそのまま垂直に下りるくらいの起伏しかありません。つてこれは全く関係ないです。忘れてください。

「しかし危機は去らずツー今再び捕食のとき来たりー、ゴチになりまあ〜す！！」

あわわわ。早くも復活した花恋ちゃんがまたもや私に襲い掛かってきます！

「天罰」

「ぱちこーん！」

スケルトンの選手のよつづつぶせのまま床を滑つていく花恋ちゃん。教室の隅の掃除ロッカーに鈍い音を立てながらぶつかりやつと止まりました。心なしか頭から魂のようなものが……。

「やつと静かになつたな。やあ、ハルおはよつ。今日もいい一日になりそうだな」

人一人を瀕死状態にしてやけに爽やかな笑顔。

普通この惨状を見ればうろたえること必至でしょう。でも今の一連の流れが私達の日常ですからいつも通りです。

「うん。おはよう理桜子ちゃん。今日は一段と激しかったですね」「いつもいつもいい加減にして欲しい。ツツコむこちらの身にもなれと言うのだ。大体力加減も結構難しいのだぞ？力を入れすぎれば花恋の額を力チ割つてしまふ」

ハリセンですかっ！？

「ああ、そうだ。中国拳法の氣功術の一つに硬氣功というものがあるてだな。これは氣を練ることによって自身の身体を鉄のように硬化させるんだが、これを私はハリセンに応用する。鉄の如き硬さを持つた私のハリセンは岩を砕きそして花恋の額を割ることが出来る！」

「ありやりやりやりや。そんな訳の分からんもので額割られちゃたまりませんわ〜。いやマジで」

額をさすりながら花恋ちゃんが戻ってきます。

あれだけのほほ交通事故といつても過言じやない程の衝撃を受けてきたにも拘らずまるで無傷というのが恐ろしいです。

「ワタクシ生来頑丈なつくりになつてゐるのをございますよ。あれくらいの衝撃じゃ一びくともしませんねー。リオ姐の硬氣功とやらを使ってもワタクシの額は割れませんかもしれませんかも？」

「ほお。ならば試し斬りしてみようか……！」

「やれるものならやつてみるがイイ！－私は逃げも隠れもしないぜ！」

剣呑な雰囲気。ピリピリした空気が二人の間に漂い始めました。二人は仲良しさんですがよくこうやつていざこざを起こしてしまいます。大抵その後に残るのは変形した机。割れた窓ガラス。窪んだ天井と床。あと先生に連れられて生徒指導室でこつぴどくお叱りを

受ける一人。

もう何回目ですか！学習していくださいつ！

きーんこーんかーんこーん。

二人の間に水をさすようにチャイムの音が鳴り響きます。朝のホールーム開始の合図で、そろそろ先生が教室にやってきます。流石に一人も戦闘態勢を解いて口惜しそうに自分の席へと戻ります。

良かったです。友達一人が喧嘩してるのを見るのは私としてもちよつとキツいところがあるのです。

「勝負はお預けだぞ」

「預かりたくもないけどねー」

「喧嘩はダメですっ。危ないです！」

口ではなんと言つていても私達三人は結構仲良しこよしです。

私はあんまり友達を作るのが得意ではないので一人の存在は大きいです。二人ともとっても大好きです。桜の花と同じくらい大好きです。

だから私は思わなかつたのです。

二人よりも好きになる人が現れるなんて。

友情とは比べられないほどに優先度が高い、愛情というものの存在を私は初めて知ったのです。

結果的に私は花恋ちゃんと理桜子ちゃんを傷つけてしまったかもしれません。今までの楽しい自由気ままな関係にはもう絶対に戻れないでしよう。私にはそれが悲しい。二人との関係の崩壊は身が引き裂かれるほどに苦しい。

だけど。

それでも。

私は彼を選んだのです。

? 桜吹雪と始まりの鐘（後書き）

お初にお会いにかかります。弾楽一奏と申します。  
恋愛小説は今回が初めてなので見苦しい箇所もあるかと思いますが、  
どうぞよろしくお願ひします。  
あー、恋してえなー！！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0218k/>

---

すぷりんぐブディング

2010年10月9日03時34分発行